

教えて！ ドクター Q&A

(株)宣通 (052)979-1600 広告

スやダイエットで行われてい
すので相談して下さい。
食事療法は高血圧症に対し
て塩分制限、糖尿病に対しては
カロリー制限が必要です。カロ
リー制限をしながら好きな物
を食べることができ工夫も
ありますので、管理栄養士や糖
尿病療養指導士に相談される
と良いでしょう。

Q

10年前に伯母が脳幹出
血で倒れ、奇跡的に右半
身不随のみで命は助かりまし
た。もともと太っており血圧が
高かったのも原因みたいで、一
時痩せましたが最近また太っ
てきて軽度の糖尿病も発症し
心配です。車椅子の生活でなか
なか運動も難しく、何か方法は
ありますか？

A

車椅子生活で普通の運
動は難しいですが、車椅
子に坐り上下肢を動かすこと
ができます。上下肢にセンサー
を装着して、コンピュータに
読みとらせ可動域を測定しま
す。経時的に行うことにより可
動域の増加の程度がわかり、本
人の励みになります。又、運動
できないことは認知症の危険
因子ですので、脳の機能と運動
機能とを連携させ認知機能の
低下を予防するプログラムも
あります。これらはデイサービ

薬物療法では、脳出血の既往
がありますので、脳血管障害慢
性期に推奨されるCa拮抗剤
が選択されます。体重が増加し
易い人に対する糖尿病治療薬
としてSGLT2阻害薬がす
すめられます。近位尿管でグ
ルコースの再吸収を抑え、尿糖
排泄を促進して血糖を下げま
す。内臓脂肪、皮下脂肪を減少
させ、体重を減少させる作用が
あります。このような方法で、
希望のある質の高い生活がで
きると良いと思います。

名古屋大学大学院医学研究
科修了。医学博士。米国ニュ
ーヨーク市Francis Delafield
Hospital, Harlem Hospital
Center外科レジデント。ミネソ
タ州Mayo Clinic胸部心臓
血管外科留学。金沢医科大学
心臓血管外科講師、名古屋
大学胸部外科助手、名古屋
第一赤十字病院胸部外科
部長。1997年4月より現職。



院長 早瀬 修平
(はやせ希望クリニック)